

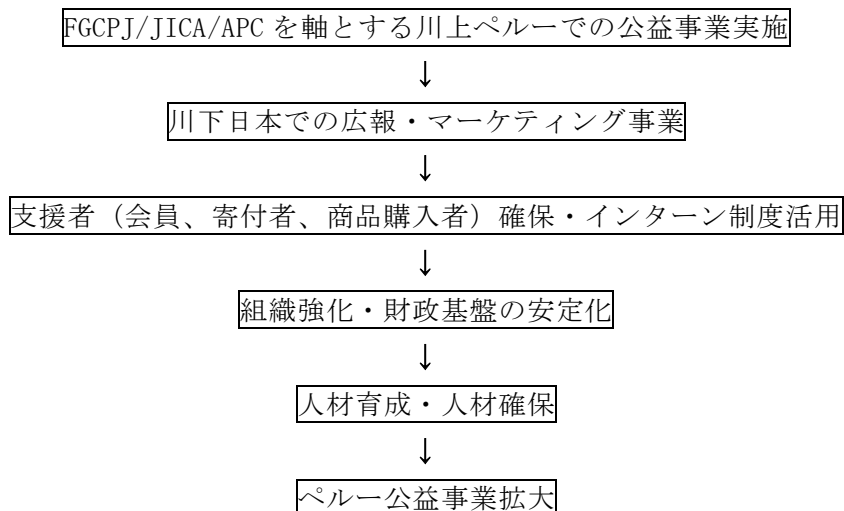
# 特定非営利活動法人アルコイリス

## 2006 年度特定非営利活動に係る事業報告書

(2006 年 10 月 01 日 — 2007 年 9 月 30 日)

### 1 事業の成果と課題・要約

第二期は、ペルー・アグロインダストリアス・アマゾニカス社（以下、AA 社）との提携によるアグロフォレストリー開発事業と日本国内でのグリーンナッツオイルマーケティング事業を先行させる一方、ペルーカウンターパート NGO KEEP と協力し、日本ペルー見返り資金事業（以下、FGCPJ 事業）、JICA 草の根技術協力事業支援型（以下、JICA 草の根事業）、在ペルー日本大使館草の根協力事業（以下、APC 事業）実施に向けた提案・準備作業を進めた結果、それぞれ受託内定または受託に向けた具体的な目処が立った。来期以降は、これら外務省 ODA 関連事業の確実な実施による活動実績の積み重ねと、ペルー・日本両国におけるアグロフォレストリーとコミュニティートレードを軸とする公益活動展開を念頭においた、事業実施体制作りや財務体質強化が課題となる。来期以降着手する事業フローアウトラインを以下に示す。



### 2 会議

#### (1) 総会

2005 年度事業報告・会計報告、2006 年度事業計画・予算報告を行なうために、2006 年 11 月に通常総会を開催した。追加理事選任を含む組織変革に際して、2007 年 2 月に臨時総会を 1 回開催した。

#### (2) 理事会

年度内で合計 12 回の理事会を開催した。

2006 年 10 月 17 日 ペルー生産地域調査報告、FGCPJ 事業提案報告、グリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告。

11 月 1 日 第一期決算承認、労働金庫融資案申請検討、グリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告、アルコイリス基金事業経過報告。

12 月 5 日 キャッシュフロー検討、市ヶ谷サテライトオフィス事務所賃貸契約案承認、理事追加案審議、JICA 草の根事業提案検討。

2007年1月12日 apBank 融資申請案検討、日本脂質栄養学会退会決定、JICA 草の根事業提案検討、日本ペルー協会協賛決定、グリーンナッツオイル新商品開発案検討、グリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告。

2月8日 理事追加案承認、専門職員採用案検討、FGCPJ 事業提案経過報告、広報機関紙発行決定、アルコイリス基金事業報告、グリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告。

3月9日 FGCPJ 事業提案審査遅延報告、JICA 草の根事業提案報告、有給職員採用案承認、グリーンナッツオイル販売事業収益構造改善案検討、中期事業計画案検討、グリーンナッツオイル新商品開発案検討、グリーンナッツトルタ商品開発案検討、広報機関紙内容検討、FOODEX2007 出展やアースデイ東京 2007 参加決定を含むグリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告。

4月13日 JICA 草の根事業提案報告、FGCPJ 事業審査遅延状況報告、APC 事業提案承認、労働金庫・apbank 融資申請案検討、財団法人自然農法国際研究開発センター提携事業案検討、AIN 事業提案検討、グリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告、グリーンナッツオイル販売事業利益率改善案検討。

5月10日 有給職員雇用保険支払報告、apbank 融資申請案件経過報告、FGCPJ 事業提案審査遅延状況報告、JICA 草の根事業提案報告、APC 事業提案検討、財団法人自然農法国際研究開発センター提携案検討、AIN 事業提案検討、アースデイちば参加を含むグリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告、広報機関紙発行事業経過報告。

6月8日 有給職員雇用契約変更検討、apbank 融資申請案件経過報告、FGCPJ 事業提案審査遅延状況報告、APC 事業提案報告、AIN 事業提案方針決定、BeGood Café オーガニックサミット参加やフレグランスジャーナル社との展示会共同出展計画を含むグリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告、広報機関紙発行事業経過報告。

7月13日 有給職員退職報告、澁谷理事の使用人兼務役員登用案承認、FGCPJ 事業提案報告、JICA 草の根事業提案報告、赤坂グランドプリンスでのペルーフェア参加を含むグリーンナッツマーケティング事業経過報告。

8月8日 役員改選検討、有給職員退職手続き確認、使用人兼務役員就労条件検討、経理・販売管理ソフト導入決定、夏期休暇日程決定、NGO KEEP の FGCPJ 事業受託内定報告、JICA 草の根事業提案報告、APC 事業提案報告、AIN 事業提案報告、PANASONIC NPO ファンド事業提案経過報告、apbank 融資申請案件検討、グリーンナッツオイルマーケティング事業経過報告、

9月13日 第二期予算案検討、apbank 融資申請案件経過報告、FGCPJ 事業提案報告、JICA 草の根事業提案報告、APC 事業提案報告、APC 事業②提案方針確認、AIN 事業提案報告、エコジャパンカップ 2007 事業提案方針検討、三井物産環境基金事業提案方針検討、日航ホテル泥武士工房オープニングセレモニー参加を含むグリーンナッツマーケティング事業経過報告。

### (3) プロジェクト会議（事業報告検討会）

年度内で合計 11 回（2006 年 11 月 15 日、12 月 18 日、2007 年 2 月 23 日、3 月 29 日、4 月 26 日、5 月 24 日、6 月 25 日、7 月 25 日、8 月 22 日、9 月 28 日）の事業報告検討会を開催し、主に、川上ペルー生産地開発事業と川下日本マーケティング事業に関する経過報告と懸案検討、新規助成金提案に関する協議を行なった。

## 3 組織運営

### (1) 財務状況

理事からの借入金は前期繰越を含め 4,233,400 円、収入総額 10,056,347 円のうちフェアトレード事業収入（商品販売収入）は 9,460,942 円（構成比 94%）、フェアトレード事業収入（商品販売収入）の 5%に相当する 473,000 円を寄付金として計上した。今期は、理事からの借入金やフェアトレード商品（主にグリーンナッツオイル）販売収入に依存する収支構造が浮き彫りとなった一年であった。来期は公益活動実績を積み重ねつつ、会費収入を含め多方面から安定的に収入が得られる構造へと転換を図ることを念頭に置いた財政基盤構築が課題となる。

川上ペルーアマゾンでの活動費用として計上した『現地預け金』は、前期繰越（短期貸付金からの振替）を含め 4,445,782 円に達した。来期以降、NGO KEEP 受託分を含む上記 ODA 関連助成金拠出と国立ウカヤリ大学等カウンターパート負担金（助成金拠出見込 38,000 千円、カウンターパート負担見込 10,000 千円、総額 48,000 千円）受入による川上公益事業実施体制作りが開始され、並行して日本国内で実施する広報マーケティング事業、アグロフォレストリーモデル農場里親会員募集、コミュニティトレード商品生産工場の稼動に伴う商品販売事業立ち上げ・展開による、現地預け金の回収が課題となる。

## （２）組織構造の強化と変革

2007 年 4 月に組織強化のため有給専従職員を採用したが、人材育成を含めた雇用条件から組織強化に至る労使双方の考え方の相違から、7 月末をもって退職となった。2007 年 2 月に理事 3 名を追加し、計理事 9 名、監事 1 名体制となった。追加した理事のうち 2 名は当会ペルーカウンターパート NGO KEEP の主要メンバーを兼務し主に川上開発プロジェクト要員として、うち 1 名は 7 月に退職した有給専従職員の後を受け、8 月より使用人兼務役員として川下マーケティング・セールスプロジェクト補佐業務を担当した。グリーンナッツオイルの仕入とマーケティング・セールス業務については、事業リスクを最大限に回避し、且つ費用対効果を重視した結果、理事が経営する外部企業 2 社へ委託していたが、商品の供給体制の安定化と販売先の確保においてある一定の目処が立ち、当初目標達成が確認できたことから、来期以降は当会内部業務として位置づける方針。また、内部業務となるマーケティング・セールス活動関連経費の計上については第三期予算作成段階において検討課題となる。

## （３）事務局運営

年度内に理事会が 12 回と、主要役員参加による事業報告検討会（プロジェクト会議）が 11 回開催され、最高意思決定機関としての総会に代わり、重要意思決定機関として機能したが、会議開催の通知、会議の進行、役員間の調整、合意形成、合意事項の起案、議事録の作成は、事務局長兼務理事が担った。今期は、事務局運営経費は計上せず、事務局業務は担当理事によるボランティアワークにより支えられてきたが、事業実施体勢が整う来期以降は、作業量の増加が見込まれ、人件費も含めた事務局費用の計上が求められる。

## （４）国内外関連セクターとの協力の活性化

今期、FGCPJ 事業提案形成にあたっては、NGO KEEP を介し、ペルー国立ウカヤリ大学との連携関係を促進した。また、同事業立ち上げを契機に、同大学が掲げるアグロ・インダストリー・スクール構想の下、相互交流を活性化することを確認した。FGCPJ 事業を前提条件とする JICA 草の根事業では、その立案過程において、東京農工大学大学院国際環境農学専攻山田彰祐先生や財団法人自然農法国際研究開発センターの参加・協力を仰ぎ、アグロフォレストリーを軸とする循環型農法実証

段階を見据え、相互連携・交流に努めた。APC 事業では、NGO KEEP を介しプカルパ市ヴィジャエルサルバドール地区少年院との共同事業として提案を行ない、アマゾン先住民伝来の植物資源を利用した、少年院での矯正プログラム策定に向けた共同作業を開始した。加えて、グリーンナッツオイルマーケティング事業の一環として、日本脂質栄養学会への協賛、財団法人食品薬品安全センター 秦野研究所での実験協力、昭和女子大中津川ゼミへの試料提供、グリーンフラスコでの講演、日本ペルー協会主催のウゴ・パルマペルー大使着任パーティーへの参加を通じて、関係各方面との協力関係を広げた。

#### **(5) 広報・マーケティング活動**

2007 年 4 月に広報・機関紙『熱帯聖森 EXPERS』創刊号を発行した。

### **4 年度内に実施した留意すべき活動**

#### **(1) AA 社との事業提携によるタラポト事業**

アグロフォレストリーノウハウの蓄積、日本市場でのマーケティング調査、組織運営資金の効率的な調達等々の目的で、ペルーサンマルティン県タラポト地区を中心にアグロフォレストリー事業を展開する AA 社との提携事業を、他の事業に先行し開始した。

#### **(2) ペルー生産地調査事業**

タラポト事業を進める一方、ウカヤリ県プカルパ地区をベースとする JICA 草の根案件への再申請に向け、2006 年 10 月に理事 2 名をペルーに派遣し、現地カウンターパートとの関係強化と生産地での問題点把握のため、タラポトとプカルパの両地区を対象にフィールドサーベイを実施し、調査結果を JICA 草の根事業提案へ反映した。

#### **(3) コミュニティートレード商品マーケティング支援事業**

グリーンナッツオイルのマーケティング支援活動の一環として、アジア最大の食品見本市 FOOD EX 2007 の出展、アースデイ東京 2007、アースデイちば 2007、BeGood Café オーガニックサミット他関連イベントへの参加、月刊マクロビオティックへの広告掲載、東京・東北沢のリマ・クッキングスクールとの料理レシピ共同開発、日本脂質栄養学会への協賛を行ない、その都度蓄積した情報をパンフレットやフライヤー、広報機関紙へ反映し、関係各方面へ配布した。

以上